平成２８年度　第２回　鳥取市総合企画委員会

１　日　　時　　平成２８年７月２７日（水）１４：００～１６：００

２　場　　所　　鳥取市役所　本庁舎６階　全員協議会室

３　出席委員　　入江到委員、岡田一壽委員、岡本洋一委員、小谷文夫委員、白岡あゆみ委員、谷上雄亮委員、茶谷友士委員、塚田比佳里委員、冨岡庄一委員、西村賀代委員、橋本勝信委員、橋本智洋委員、松本壽惠委員、森原昌人委員、安田晴雄委員、山根滋子委員

４　欠席委員　　尾崎直美副委員長、上山弘子委員、下山裕子委員、谷口節次委員、松本弥生委員、森英俊委員

５　鳥 取 市　　市長、副市長、関係部（局）長（監）、政策企画課創生戦略室（事務局）

○高橋政策企画課長

ただいまより平成２８年度第２回鳥取市総合企画委員会を開会したいと思います。

本日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

この委員会は、委員の半数以上の出席で成立ということが条例で定まっておりますけれども、本日は１６名の方に御出席いただきましたので、この会議は成立ということを御報告させていただきます。

なお、尾崎副委員長、上山委員、下山委員、谷口委員、松本弥生委員、森委員については、御欠席の連絡をいただいております。

それでは、開会に当たりまして、深澤市長より御挨拶をいたします。

○深澤市長

皆さんこんにちは。今日は大変お忙しい中、本年度第２回となります鳥取市総合企画委員会に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

安田委員長様はじめ委員の皆様には、この度は格別にお世話になりまして、昨年の９月３０日付で鳥取市版の人口ビジョン、鳥取市創生総合戦略、この２つの地方創生の取り組みについてまとめさせていただいたところでありまして、いよいよこれからＰＤＣＡのＣ、チェック、検証をするという時期に至ったわけであります。これにつきましては、あらかじめ委員の皆様より色んな御意見、御提言等いただいておるとこ

ろでございますが、こういったことも踏まえて各施策について様々な御意見、また御提言等を本日この中でいただければと、このように思っているところでございます。

委員の皆様におかれましては、一昨年の１０月にこの総合企画委員会の委員として御就任をいただきまして、２年が経過しようとしておるところでございます。事務局をしております企画推進部の方にちょっと聞きますと、ひょっとしたら委員の皆様、今回この委員会が最後の委員会になるかもしれないということで、１０月に御就任いただきましたので、もう少し任期がございますが、改めまして色々これまで御尽力をいただきましたことに心より感謝を申し上げる次第でございます。

これからがまさに地方創生の取り組みの佳境に入っていく部分ではないかなと思っておりまして、昨日も色んな国の方の要請活動等の中で一億総活躍ということがこの地方創生の取り組みにかぶってきまして、何かちょっと影が薄くなっているのではないかという話もありましたが、そうでなくて地方自治体が今まさにＰＤＣＡ、チェック、それからアクション、この辺りをしっかり取り組もうとしているのだということを申し上げたわけであります。まさにこれから将来を見据えたまちづくり、鳥取のまちづくりを多くの皆様と一緒になってしっかり取り組んでいくというスタートに、緒についたと考えております。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

○高橋政策企画課長

続きまして、安田委員長より御挨拶をいただきたいと思います。

○安田委員長

失礼します。ただいま４対１で境が勝っているようであります。安心していただきたいと思います。絶対私自身は城北高校が出てくるだろうなと思ったわけでありますが。

といいますのは、何だかんだいいましても、境は公立高校でありますし、城北高校は私立ということは、それなりにセレクションで結構一芸に秀でた方々を採用できるのかなと思っていたのですが、わからないですね。やっぱりこの暑さで世の中何か狂っているのと同時に、高校野球も狂っているやもしれません。

私自身の気持ちでありますけれども、何かこの頃、世の中がうまく理解できないというか、ついていけないことがたくさんございます。実は今日も入口で個人番号の件で証明をしていただいたわけでありますが、このマイナンバー制度に関しても県や市、国から余り説明がなかったのですよね。従いまして、私は自分自身が理解するまでは

やめておこうということで、未だ個人番号を登録しておりません。次に、大きな政治の活動であるＴＰＰも余り説明がない。一般的に私自身が知っている範囲内というのはごくごく一部のことであり、これが選挙の中に反映されるのかなと思っていましたが全然なかったです。また、改憲の問題も全然なかったですね。３分の２議席をとるのだということで、私も保守系であり、元自民党員であるわけですけれども、何ら説明がない。さらには消費税の問題にしましても、８％から１０％にする、何か全てが棚上げ。何か知らないですけれども、蚊帳の外というのでしょうか、それで政というのを本当にやっていけるのかなという疑問を感じるわけであります。

それから、僕は日本にはＩＳはないだろうと思っていたわけですが１９名もの多くの方が一昨夜亡くなられるという非常に悲惨な事件がありました。その知らせを聞いた時にはてっきりＩＳだと思ったのですが、そうではないのですね。こんな言語道断なことが日本国内でも起こっているということで、自分たちの気持ちをもっともっと引き締めて考えなければならない昨今なのかなと思っております。

冒頭に市長から、平成２６年１０月２１日に諮問がございまして、平成２８年の１月１３日には第１０次鳥取市総合計画の答申があり、計算しますと本日を含めて１１回の総合企画委員会を開催させていただきました。皆様方の慎重な審議の中で実行に移す段階に来たわけであります。本年度、平成２８年度から３７年度が１０次総の基本構想ということですし、平成２８年度から３２年が基本計画となっているわけであります。私たちはこれを真摯に受けとめながらやる必要があるのかなと思っております。

そもそもこれは２０１１年３月１１日の東日本大震災以降、２０１１年の５月７日に現在の都知事選に立候補なさっている増田さんがいわゆる有識者を集められて日本創成会議というものを開催されまして、その中で復興に対する具体的な方策などを提言されました。さらに２０１４年５月７日には新たに具体的な提案というのがございました。いわゆる少子高齢化の問題でございます。それから「ストップ少子化・地方元気戦略」という具体的な方式が出てきたわけです。それから、日本政府が地方創生、いわゆる日本再生という言葉が出てきたのはその時分かなと思っております。この問題に関して、私たちは国や県がやってくれるからという意識を持ち合わせずに、私たち自ら、今現在出席していただいております委員の皆様自らでアクションを起こしていただきたいな。また起こしていただけるように、今まで慎重審議をしていただいておるわけでありますけれども、人に頼らなく、私たち自身でこの問題をずっとずっと

解決していく必要があるのかなと思います。地方再生は私たちの力でやっていきましょう。

それでは、具体的な委員会に入らせていただきます。ありがとうございました。

○高橋政策企画課長

ありがとうございました。それでは、議事に入ります。

この委員会の規定によりまして、議長は委員長にお願いするということになっておりますので、これ以降の進行は安田委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○安田委員長

ありがとうございました。それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

（１）であります、協議事項の鳥取市の人口動向について、資料１を事務局より説明をお願いいたします。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

資料１に基づき説明（略）

○安田委員長

ありがとうございます。端折っていただきましたけれども、御質問、御意見ございませんでしょうか。これは実数値ということでございますので。

○森原委員

２点質問です。国勢調査の人口で減少率が鈍化しているということですけれども、合併前の旧鳥取市と８つの旧町村を比較するとどうなるのか。以前から旧町村部は人口が減って、旧鳥取市の方に移住しただけではないかなという見方もあるのですけれども、その辺りの分析はどうかという点をお尋ねします。

それからもう一つは、この前の参議院選挙で問題になったのですが、不在者投票、鳥取市に住民票はあるが進学や単身赴任等で他の県に行っている人がどのくらいあるのか。逆に転入された方で住民票がない方もおられると思うのですけれども、単身赴任とかで、その辺りは把握できるのかどうか。転入、転出に絡んでくると思うのですが、もしわかれば教えていただきたいと思います。

○安田委員長

今、森原委員の方から話があったのですが、すぐわかりますか。調査後という形にさせていただきましょうか。

○森原委員

はい。

○安田委員長

今、多分そういう資料を持ち合わせでないと思いますので、事務局におきましては、調査後、何らかの方法で回答していただくようお願いします。

続きまして、（２）鳥取市創生総合戦略の検証についてということで、資料２をお願いしたいと思います。本日はこの資料２がメインでございます。各委員の方々にも、もちろん個別に質問をお受けいたしますし、なければ半強制的に１人ずつという形になりますので、御了解願いたいと思います。

それでは、事務局より説明をよろしくお願いします。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

資料２に基づき説明（略）

○安田委員長

ありがとうございました。結構な量を短い時間で説明をしていただいたわけでありますが、これに関しまして、今度は委員も評価に携わっていただいたわけでございます。この評価や意見に対する回答・対応方針、それから未評価の２点の施策等につきまして、不明な点やもう少し詳しく聞いてみたい点など、時間をお一方大体３分から５分以内ということでお願いしたいと思います

それから、資料の評価に基づきまして色んな評価を個人的にもなさった方もいらっしゃいます。それについての回答、対応がこれでいいのかどうかも含めてお話をいただいたらありがたいかなと思います。

それでは、冨岡委員の方からお願いできますか。

○冨岡委員

質問というよりも、むしろ現状報告かなと思います。４ページの１６番が大学に関係することかなと思います。市内の大学や企業と連携し云々というところです。宣伝も兼ねて少し喋らせてもらいますけれども、環境大学は今年で５年目を迎えています。昨年度末で４年、ちょうど一巡したといいますか、１期生を出しました。だから、今年の３年生で卒業した人たちが新生の公立鳥取環境大学の卒業生ということになります。そこで就職状況なんかははっきりしたわけですが、環境大学の経営学部でいいますと、経営学部の授業の中に地域経営という授業科目群があります。地域が抱えてい

る色んな問題について勉強しましょうという科目群ですが、学生さんの希望、関心は非常に高く、全国各地から集まってきています。地域といっても別に鳥取だけではもちろんありませんので、鳥取が抱える問題は全国の色んな地域も抱える共通の問題ということで勉強しています。そういう地域に関する関心は学生さん、非常に高いです。これまでの授業の中でもゼミ単位で地域に入って調査したり、話を聞いたりということを盛んにやっておりました。その関係がどうか、ちょっと今まだはっきりとは言えませんが、この３月の就職先を見てみますと、地元の金融機関とか地方自治体をはじめ、色んな企業への就職が結構出てきています。私のゼミでいいますと、ゼミ生の中で鳥取出身の人たちも複数名いましたが、ほとんどが地元への就職を希望し、結果的に地元に多くの人たちが就職しています。少なくとも地元出身の人たちにそういう傾向ははっきり見られるなと思っています。それ以外に他の県から来た人たちも、例えば地域おこし協力隊というのがあるのですが、鳥取県内の色んなところで、１年から３年ぐらいですか、働いてみようという人たちも出てきています。

あと、地域連携活動推進助成金というのがあるのですか、僕は余り詳しくは知りませんが、そういう助成金を受けた活動もたくさんあります。そういう意味で、たまたまでしょうけれども、地元鳥取に対する関心というのは結構学生さんの中に高いということが、まだ１年だけですけれども、この３月の卒業生の動向を見ていても、それなりに出ているのかなという感じはしています。

この４月からカリキュラム改革をやりまして、さらに地域研究をもっと増やそうという意味での改革をしましたので、さらにその教育効果は出てくるのかなというふうに期待しております。

というところで一応、現状報告だけで御勘弁願いたいと思います。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

事務局の方から一つ説明し忘れておりますので。資料２の１０ページの６９番、それから、１３ページの９３番の未評価の施策について追加の説明をさせていただければと思います。

○安田委員長

どうぞ。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

１０ページの６９番と１３ページの９３。こちらの方が総合企画委員さんの評価が

入っておりません。評価シートをお配りした時にまだ数値の方が固まっておりませんで、評価をしていただけていなかったということです。今回これも含めて評価をお願いしたいということでございます。

○安田委員長

ありがとうございました。６９番と９３番も踏まえて、関係のあるところはお願いしたいと思います。それでは、西村委員、お願いいたします。

○西村委員

ちょっと何を言っていいか困っているのですが、今回の評価ですけれども、資料を見まして、内部評価に従い、素直に評価を書かせていただきました。これで良かったのだろうかと思いつつ、２年間過ごしてしまいました。

○安田委員長

特に何かございませんか。自分の個人評価の中でそれでいいのかとか疑問に感じるようなことがなければお願いします。

○西村委員

資料も多くとても検討事項が多いということで、自分の分野ではないこともたくさんありますし、とても難しかったなと感じました。今回も資料を読みましたけれども、ちょっと字が小さく読みにくかったりして、何かちょっと手に負えなかったなと。残念な感じが自分の中ではございます。

○安田委員長

そういうことがあろうかということで、それぞれの３つのセクションに分かれて、その分だけを重点的にやっていただくという形にしたのですが。

○西村委員

それに関してはとても対応はしやすかったと思います。

○安田委員長

わかりました。ありがとうございました。それでは、橋本委員、お願いします。

○橋本（勝）委員

私の方は１７番の次世代を見据えた特色ある教育の推進ということで、鳥取市医療看護専門学校の卒業生７０％の市内医療機関への就職についてお話しします。これはちょうど出雲をやっておりまして、出雲では今年３月、卒業生の７０％が地元に就職しました。ですから、その延長上でこれぐらいは十分できるのではないかという考え

で数字を出しております。

あと、医療看護の学生がちょっと社会貢献できたらなということで、先ほど９３番のような分野には色々協力できるのではないかと思います。学生さんも私情で勉強できるのではないかということで、少し外部の医療機関、福祉機関とのボランティア連携などがあっていいのではないかという考え方を持っております。来年からいよいよ最終学年に入りまして、国家試験に入り、臨床実習に多く出ますので、たくさん協力はできるのではないかという考え方を持っております。

○安田委員長

ありがとうございました。特にございませんね。よろしいですね。

それでは、同じく橋本委員、よろしくお願いします。

○橋本（智）委員

僕も前回初めて出させていただいて、今回２回目なので、よくわからないまま評価の方もさせていただいたということになります。

連合東部地協で、労働組合ということで出させていただいておりますが、評価自体が上手くできたのかどうかわかりません。自分が普段組合というところに出て、どうやって現場の方々に思いや色んな現状等を伝えればいいのかなというところがとても難しく、どういう法律、事業があり、それが実はこんなことで守られているということが、なかなか現場にいた時にはわからなく、今もわからないままです。ここにもたくさんの個々の事業があるのですが、どれというのはちょっとわからないのですが、僕もここに出てきて初めて知ることばかりだったので、こういうことを周知していくということがとても大事だなと感じています。

私たち労働組合なども年齢がだんだん高齢化し、見る人が同じ人ばっかりになってしまって、若い人がなかなか入ってこないという状況があります。先ほどの人口の動きなんかを見させていただいても、２０代というものが出ていくというのはずっとなのだろうとは思いますが、そこにも本当は思いのある若者がたくさんいるとは思うので、どうやって周知していくかという方法が大事だなと思います。それをきちんとしていくと多分反応していく人たちは出てくると思うので、僕もこれをしっかり見させていただいて、また組合の方に持って帰らせていただきたいと思います。

○安田委員長

ありがとうございます。周知の徹底ということですけれども、具体的に、橋本さん

あたりがこうあればいいのになという代案みたいなものはありますか。例えば市報も、実際にそういう情報がたくさん出ておりますよね。それ以外のところをおっしゃっているのかなと思っているのですが。

○橋本（智）委員

例えば自分も便りをいっぱい配って、「こういうのが現場にありますよ、来てください」と言っても、反応が返ってくるのはごくごくわずかで、そういう時に、今若い人は、例えばＬＩＮＥとかを持っていますが、それだけですっと発信すると返ってくる、「あっ、知りませんでした」と言われることもあります。使い方を間違えると危ないとは思うのですが、そういうものも上手に使っていくこともありなのかなと思います。ちょっと代案にはならないですが。

○安田委員長

なるほど。今具体的に、例えばＬＩＮＥみたいなものを使って発信したらどうでしょうかという話がありますが、ここら辺りは市の対応としてはいかがでしょうか。

○深澤市長

ＩＣＴ技術は日々進歩しておりますので、ＬＩＮＥ等をはじめ、色んな情報媒体を上手く活用して、鳥取市の取り組みはもとより色んな情報発信をしていくということは非常に大切だと思います。

また、先ほど御指摘いただきましたように、比較的若い世代の方が地元に定着していただきたい訳でありますけれども、どうしても卒業後に市外に転出されるというのが鳥取市の社会動態の一つの特性ではないか思います。これをいかに少なくするかということが人口減少の歯止めということにおいては非常に重要な部分ではないかなと思います。例えば在学中の皆さん等も含めて、鳥取市にはこういった素晴らしい企業がたくさんあるとか、こういう技術を持った方もたくさんいらっしゃる、そういったことが振り返ってみますと、我々としてもまだ十分ではなかったように反省も含めて思っております。これから産業界の皆様、また大学など教育機関の皆様と連携をしながら、そういったことに一層取り組んでいくことがこれからは大切ではないかなと思っているところでございますので、力を入れていきたいと思います。

○安田委員長

ありがとうございます。今ポケモンなんていうのが出ていますよね。あれはある人に言わすとボケモンだと。もう何か世の中おかしいのではないかと。先ほど私が冒頭

に申し上げたのと関連しますが、メディアが余りにも走り過ぎると非常に大きな問題が起こるのかなと私自身は考えたわけでありますけれども、いかがでしょうか。

そのあたりは、また次の問題としまして、松本委員さん、よろしくお願いします。

○松本（壽）委員

失礼します。私は１４番、１５番のあたりで、中学生をシンガポールでしたか、今年は１０人派遣ということで、これは人材育成ということになると思います。今、英語が中学校、小学校の５年生、６年生に入っているのですが、３年生から入ってくるという文科省の取り組みもあり、中学校の英語がもっともっと重要化され、高等学校でもヒアリングがマスターできなければいけないという、本当に私たちが今まで本を開いて「ディス・イズ・ア・ブック」と言っているような状況ではなくなってきているので、そのあたりをどう意識改革するのかということで、大きな事業であろうと思いましたので、意見を書かせていただきました。

１６ページの方に丁寧に回答が書いてありますので、それを読ませていただいて思ったことは、一つは学校現場の先生に負担をかけない取り組みということで、引率者におきましても事前の準備にいたしましても、随分考えられているなと思いました。

私の方で思ったのは、１０人の募集人数に対して６８名の応募があったということですが、本当に学校現場は忙しく、これ以上何を取り入れるのだというのが現場の声だと思うのですが、この６８名や鳥取市内の各小・中学校の気持ちなどに対し、一つはやはり海外派遣に行ってきたことの意義と人材育成につながる報告会というものが必要かなと思っています。やっぱり目的を持って行って、１週間なり１０日間なりを過ごしてくる中で、何を見て、何を感じたのか、今後の自分に何を生かしていくのかというところを伝えていくことがこれからの子どもの財産になっていくのではないかと思います。いい報告会ではなくてもいいと思いますので、生の声が聞ける本当の意味での報告会等ができて、「よし来年行くぞ」とか「今年は落ちたけれども来年は行きたい」という思いにつながればと思います。それはやはり人材育成の中につながって、ただ旅行に行くというだけではなく、本当に今、目指さなければいけない人材育成の一つにしていただけたらなと思いました。随分丁寧に書いていただいておりますので、実施していただけたらと思っております。

○安田委員長

ありがとうございます。教育委員会さん、この点に関していかがでしょうか。

○尾室教育委員会事務局長

教育委員会事務局です。１６ページでもお答えしておりますけれども、報告会については、おっしゃられるとおり、これはやっていこうという方向でございます。それから、現在ここの資料では６８名の応募に対して募集人数１０名とありましたが、この点につきまして、議会の皆さんの御理解をいただきながら、今現在２０名でシンガポールに行く計画を立てております。中学校は１７校ございますが、各中学校から必ず１名は出られる形で、今計画を組んでいるところでございます。

○安田委員長

１０名から２０名に増員なさるということですか。松本委員、よろしいでしょうか。

○松本（壽）委員

ありがとうございます。水面に石を投げ、大きな波紋のように広がる感じになっていけばいいなと思っております。

○安田委員長

ありがとうございました。それでは、次に森原委員、よろしくお願いします。

○森原委員

私が評価した項目とは別ですけれども、１１、１２ページのあたり、移住定住に関連して意見を言いたいと思います。

遅れている項目もあるのですが、平成２７年の移住者が３２６人ということで、ちょっと見ますと県外からの転入者の約１割、１割弱という数字ですので、これはもう本当に大きな人口減対策の柱になりつつあるなという感じがしています。

この中で７６番の達成率はゼロですけれども、官民協働による首都圏等の相談会について、ほかの市町村もそうですが、行政は大変色んな施策を展開されているのですが、民間との協働というか、協力、一体となった取り組みがまだまだ不十分ではないかなと思います。安田委員長がおられる商工団体とか農林水産業の団体、それから福祉とか教育とか色んな分野があるのですが、移住定住に特化した何か協議会のような、ちょっと大げさですが、ここに連絡会というのもあるのですけれども、やっぱり力を入れて移住定住を促進する大きな方針を立てられた方が人口減対策には効果があるのではないかなと思います。

因幡はどちらかというと閉鎖的で保守的なところですが、やっぱり外からの力、風というのが必要ではないかと思いますので、鳥取県内の移住者も２，０００人近く、

大変大きな数字になっていますので、さらに力を入れていただきたいと思います。

○安田委員長

ありがとうございます。補足するようなことはありますか、地域振興局。

○竹氏地域振興局次長

地域振興局の竹氏と申します。御意見ありがとうございました。

まさに今、森原委員がおっしゃっていただいたように、行政の方では様々な取り組みを進めておりまして、特にこの移住定住は力を入れているのですけれども、非常に高い効果、成果が表れるような数字というのがなかなか多くの分野では出にくいという中で、やはり今後は民間の方の自主的な取り組み、そういったものもいただきながら一緒になって連携して進めれば、もっともっと成果が出るのではないかと感じておりますので、今後そういったことで声かけをしながら進めてまいりたいと思います。

○安田委員長

ありがとうございます。もう随分と昔に鳥取市さんが募集をなさって、アメリカに１９８０年代ぐらいでしたか行ったことがあり、僕もその団員の中に入れさせていただき、ＩＴ関連の会社を見せていただいたことがあります。それから以降、余りお聞きしていないので、産業振興機構さんあたりは結構この問題に関しては力を入れておられます。３年前にはタイに私も一緒に行きまして、タイ国の労働事情とか、そんなものを勉強させていただきましたし、今回は１０月にまたインドの方に産業振興機構さんがお考えになっておられるようなミッションの御案内が来ております。結構そういう外郭団体に関しては積極的にされているようですし、そこら辺りがやっぱり県の外郭ではなくて、市当局としてもお考えいただいたらありがたいのかなと思っております。これは個人的な意見でございまして、申し訳ございません。

それでは、次に山根委員から、よろしくお願いします。

○山根委員

私はまちづくりのところで評価をさせていただいたのですが、自分のした評価が正しかったのかどうかというのをとても不安に思いながら評価をさせていただきました。

それから今月の２４日、休みに潮風を受けてカヌー体験というのを私たちの地域でやったのですが、その時に東京から帰ってこられたお孫さん（中学校１年生の男の子）もそのカヌーに参加され、湖山川から湖山池までずっとカヌーを漕いでいったのですが、物凄く感激していました。「こんなに鳥取には素晴らしいところがあるから将来

あんた帰ってきんさい」と言ったら「うん帰ってきたい」と言うのです。やっぱり都会に出ているお孫さんとかが夏休みにどんどん鳥取に帰ってきて、その素晴らしい体験を通して鳥取の良さとかそういうものが見つけられるよう、色んな体験ができたら「あっ鳥取はいいところだな」と見直して、帰ってくる子どもも何人かいるのではないかなと思います。私たちの活動は小さな活動ですけれども、やっぱり日々皆が鳥取の素晴らしさを提供できるようこうした活動をすれば、もっともっと人口が増えるのではないかなと感じております。

○安田委員長

それは、女性ばっかりの連合婦人会の方でのことですか。

○山根委員

鳥取・賀露みなとオアシスという、鳥取市さんからも援助いただいています。

○深澤市長

私も賀露におりますので、みなとオアシスというのをちょっと御説明申し上げたいと思います。平成１６年だったと思いますが、中国地方では初めて「みなとオアシス」に登録をいただいたのが鳥取港であります。

みなとオアシス、オアシスというのはみんなが集う場所ということで、港湾の機能はもとより、色んな方が集う施設がたくさんあって、今、具体的には“かろいち”とか“わったいな”がありますが、本来の港湾の機能だけでなくて、色んな方が色んな施設に集まって交流を深めていくというのがオアシスという国土交通省の取り組みであります。中国地方でいち早くこの取り組みを開始して登録いただいたのが鳥取港、賀露港であり、それ以来ＮＰＯ法人さんを中心に色んな素晴らしい取り組み、活動を続けられ現在に至っておられるところであります。先ほど山根委員さんから御紹介いただきましたのは、恐らくみなとオアシスのＮＰＯ法人の方の取り組みの一つではないかなと思っております。

○安田委員長

ありがとうございました。その他はよろしいでしょうか。

それでは、次は塚田委員、お願いできますでしょうか。

○塚田委員

私はひとづくりのところを担当させていただきました。今のお話も含めてなのですが、若い人が子どもを産んで育てている時に「何と鳥取は子どもを育てやすいのだろ

う」と思う、そして子どもたちは郷土愛を育む、１０番、１１番のところで、鳥取のいいところを身につけ知っていく、先ほどの都会から帰ってこられたお孫さんなんかのイベントの話もそうですが、鳥取の子が実際「鳥取はいいなと」思っているかどうかだと思います。参加しないですね、鳥取の子は。私も砂丘を舞台に子どもたちに砂丘を好きになってほしくて１０年余りずっとキャンプをしておりましたが、私自身、砂まみれになるし、スキーに行っても寒いし砂丘が嫌いでした。しかし、改めて砂丘の専門家に色んなことを聞いて、そこで遊ぶと好きになっていったという経緯があります。

そして１６番になりますが、今度は市内の大学や企業と連携というところで、大学生もそうですが保護者がやっぱり「長男だから鳥取にいてくれ」ではなく「鳥取のまちがいいよ」という形で鳥取に就職をするように言っているかどうかだと思います。「鳥取にいてもしょうがないから都会に出て、いい会社に勤めて」というのではなく、保護者の方にもきちっと情報を伝えていただきたいと思います。「地方暮らしの人生収支」のところも、学生だけではなくて保護者、その周囲の人、普通の市民の人にもきちっと伝えていかないといけないのではと思います。

それから、６４番の「進学者等への市内就職情報等を配信するサポート制度の構築」というところですが、かなり登録者が少ないので対策が必要ということで、関西圏の大学と書いてあります。うちの子たちは３人とも関東に出ていまして、やっぱり鳥取はすごく東京の方で鳥取出身と言うとレア県民とか言われたりするのですが、ずっと子育てから思春期、進学、就職と一貫して鳥取の良さを住んでいる者たちもそうですし、周りの子どもたち、よそから来た人にもそういうところが伝えられることがすごく大事なのではないかなと思っております。色んな形で鳥取の良さを伝えていけたらいいなと思います。

○安田委員長

具体的に言いますと、例えば今、市の職員の方々がいらっしゃるのですが、どちらにお願いをされたらよろしいですか。

○塚田委員

教育委員会です。やっぱり色んな体験をするということで、子どもたちとか中学生、高校生が鳥取のこの自然の中で思いっきり遊べるような条件整備、キャンプ場でもそうですし、すごくいいもの、素材があるのにそれを使い切れていない。やっぱり市民

が生き生きと「鳥取ってこんなにいいよ」ということが言えるのは何かでしょうね。やっぱりそこがないと、いくら「鳥取はいいよ」と言っても知らないですね。親も知らない世代がもう大きくなっていますので、そこら辺のところがうまく伝わっていったら保育料も安いし、食べ物はおいしいし、我が家ではおいしいものを食べさせて、食べ物で釣って帰らせるということを戦略に入れておりますが、そういうところだと思います。

○安田委員長

なるほど。キャリア教育も含めて、教育委員会さん、自然に触れるどうのこうのという、こういうアクションプランというのはないのですかね。

○尾室教育委員会事務局長

教育委員会事務局です。今言われた自然に触れるという部分におきましては、教育委員会では中山間地域のふるさと体験活動支援事業というのをやっておりまして、市内各小学校が佐治地域へ民泊をさせていただいております。年々参加校数は増えておりまして、平成２５年度に１１校だったものが平成２８年度には２５校にもなりました。主に旧市内の小学校の子どもたちが佐治地域に行って、一般の民家に泊めていただいて、そこで一緒に食事をし、炭焼き、紙すきといった生活体験をして、中山間地域のふるさととも言える原体験といったものをしていただいて、もっともっと鳥取の良さをわかってもらうということも今取り組んでいるところでございます。

○安田委員長

なるほど。これは希望者ですか。今２５校に増えたということですが、その学校の希望者の皆さんがなさるという強制的なものか。

○尾室教育委員会事務局長

そうです。学校の方が手を挙げられまして、例えば５年生、その学年全部が参加するという形です。

○安田委員長

そうですか。実際に佐治の方にはそういう受入施設がありますか。

○尾室教育委員会事務局長

はい。ローテーションを組みまして、何戸かにお願いして受けていただいたり、たんぼり荘といって今、指定管理が出ている、そういった宿泊施設がありますので、そこも活用しながら２泊３日の体験活動ということになります。

○安田委員長

なるほど。そのサポートはボランティアの方々も含め、先生方がなさるわけですか。

○尾室教育委員会事務局長

ボランティア、先生です。

○安田委員長

先生が。それも大変ですね。ところで、鳥取市にオートキャンプ場はあるのですか。鳥取市が運営なさっているオートキャンプ場というのはありますか。

○塚田委員

安蔵でオートキャンプができますが。でもあれは鳥取市ですか。

○深澤市長

そうですね、紹介していただいてありがとうございます。安蔵キャンプ場に一部オートキャンプができる部分がございます。

○安田委員長

それは市が運営なさっているわけですか。

○深澤市長

はい。実際には指定管理者制度に基づいて、平成１８年度からは指定管理者に運営をお願いしています。

○安田委員長

なるほど。今週の日曜日、国道９号線を走っていますと湯梨浜町にオートキャンプ場があって、車がたくさん停まっているんですよね。５０台以上あったかと思います。こういう施設が鳥取にあったらいいのになと思いつつ、安蔵の方までは気がつかなかったです。結構利用なさっているのですか、安蔵の方はＰＲとか。

○塚田委員

なかなか安蔵は遠いし、鳥取の人はオートキャンプ場には行かない。やっぱり県外の方が来られます。

○安田委員長

そうでしょうね。湯梨浜のところは本当に国道から真横ですし、色んな施設ができていますよね、バーベキューなど何から何までできているようですから。それも一つのエキスかもわかりません。それでは、茶谷委員、お願いします。

○茶谷委員

まずこの評価をさせていただくに当たり、先ほど西村委員様もおっしゃいましたがこの内部評価がちょっと誘導といいますか、直観を邪魔してといいますか、「あっ、順調、なるほどＡだな」みたいな感じで。果たして公平な評価ができたのかなというのが私もちょっと疑問に残るところでした。

さらに項目も多い中で私が思ったのは、やはりＫＰＩの指数によってそれがもう達成されているからいいとか、されていないから悪いというのではなく、やはり本来の“しごとづくり”なら「誰もが活躍できる」というところが大事だと思います。鳥取市を良くするという上で、この数値が上がらないからではなく、やはり根本を見直していくためには、やっぱり数多くある中でもここはもう「絶対に落とせない」、「外せない」というところがあると思います。そこを是が非でも達成するという意気込み、必死さがないと「達成できなかった」、「ここはできた」みたいな感じで最終的に終わってしまうと単なる数字で終わってしまうのかなというのが個人的な意見です。そうなってしまうと嫌だなというのがありましたので、そこら辺を途中てこ入れができるよう、方法なり予算なりつけていただきたいと思いました。

○安田委員長

ありがとうございます。評価の仕方、何か誘引の要素があるのと違うかと、このあたり物凄く気になるところなので、これについていかがでしょうね。

事務局、そういう意図でやられていますか。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

そういう意図ではないのですが、今回、最初に説明した時に内容がわからない部分が多く、数値だけでの判断というようなことでありましたので、次に評価する時には、もうちょっと事業の中味がわかるような形で委員さんにも評価していただくようにしたいと思っております。

○安田委員長

それからもう一つありましたよね。事後、色んな問題が発生した時に柔軟に対応できるようにはどうですかというところですが。企画推進部長、よろしくお願いします。

○田中企画推進部長

今、室長が話しましたけれど、事務局としては評価に当たってわかりやすく、参考になるように何とかしたいなということで逆に誘引の意図はなく、この評価は違うよ

というのは率直に言っていただければ、それはそれでありがたいなという意図でこれをつくらせていただきました。

もう１点、やりっ放しではなくてということですが、ともすれば計画というのはつくりっ放しで、その後なかなかフォローができていないということがこれまでも経験上多々ありました。今、ＰＤＣＡというサイクルの中で、評価・検証の取り組み方針ということで、こういった評価を素直に受けとめ、なかなか成果の上がっていない施策については、２５ページのプロジェクト推進チームでもう一回検証しながら、どうしたら達成できるかという方法論を議論していこうという意図であります。当然これは市の中のプロジェクトチームですが、必要があれば外部、民間の方も入れながら、こういった取り組みをやったらより効果が出てくるという検討をやっていきたいということです。

○安田委員長

このＰＤＣＡサイクルのいわゆる最終のチェック機関として、これは定期的に今、運用なさろうとしているのですかね。いわゆるサイクルとしてどういうＰＤＣＡサイクルの中で、総合企画委員会はチェック機関なのでしょうけれども、どういう事象の時にやられるのか、それとも定期的にやられるのかというところはいかがでしょうか。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

創生総合戦略を策定した時に、一応毎年７月ごろに検証すると位置づけております。検証機関はこの総合企画委員会ということで、チェックをしていただくということで、次のアクションに向けて、また市の方でも考えるという、そういったサイクルでしていこうと思っています。

○安田委員長

定期的に７月にやるということですね。わかりました。

それでは、次、谷上委員、お願いします。

○谷上委員

２２ページの８８番の教育旅行、各ツーリズムに対応したという部分になりますが、先ほど、急用の電話で出ている時に佐治の話が出て、聞きそびれたなと思ってちょっと残念に思っています。佐治の方も今、民泊とか体験の整備、教育旅行に向けて頑張っているところで、ちょっと気になり質問させてもらった回答が冒頭に教育旅行、各ツーリズムとありますが、これは私が質問させてもらったものです。平成３０年の教

育旅行について、中学校とか高校の修学旅行を佐治の方でということで、かなり問い合わせが来ております。大体一団体当たり１００人とか１２０名で、多ければ２６０名とか、そういった状況がありまして、そういったことはこの計画の方に入っているのかなということもちょっと聞いてみたいなというのが１件あります。

○安田委員長

計画があるのかという、これはどちらですか。観光戦略課と書いておられますが。

○浅井経済観光部次長

経済観光部観光戦略課長の浅井でございます。教育旅行につきましては、県内で統一的な取り組みを進めていこうということで、昨年来、鳥取県観光連盟、これは私どもの方も加盟している団体ですけれども、こちらの方に教育旅行専任のプロモーターを配置し、主に関西方面等を中心にプロモーション活動を行っているというところでございます。

直近、あるいは次年度での具体的な鳥取市内での修学旅行等の計画につきまして、私どもの方へ情報はいただいていないですが、県と同じく我々も教育旅行は大きなターゲットの一つと位置づけており、今後とも力を入れていきたいと考えております。

○安田委員長

ありがとうございます。例えば県外から鳥取市で自然に触れたいなあ、どこか紹介してくださいという話は観光戦略課に入るのか、教育委員会に入るのか。例えば夏休みに何かイベントを考えているよという話があった場合、これはどういうルートで情報が入るのか。

○浅井経済観光部次長

これは私ども観光戦略課の方に問い合わせは入ってきますし、あるいは鳥取市観光コンベンション協会さんなどにもそういった情報の問い合わせは入ってくるようになっております。

○安田委員長

わかりました。昔、よく林間学校とかいうのが岩美町の方にありましたが、現在でもあるのですかね。林間学校というような、夏休みに学校ぐるみで、そういう教育の仕方というのは。

○小谷委員

東浜はあります。

○安田委員長

わかりました。それでは、次に移らせてください。

白岡委員、お願いできますでしょうか。

○白岡委員

７２番、８３番の定住促進、移住定住の相談のところです。私自身は５年前にこういう相談を受け、移住を決めてきた人間として見た時、相談員の方が物すごく親身に相談に乗ってくださったおかげで、その方、その個人に恩義を感じ、今でも鳥取にすごく愛を持って生活しています。８３番にあるきめ細やかなサービスの提供に努めておりというのは、本当にそのとおりだなと思っています。特にこれは本当に大事なことだと思うので、この目標値で何世帯、何人みたいに単純に数値を出し、客観的な評価をというのはできないと思うのですが、数値をノルマとして相談員に課し、心の通ったきめ細やかな相談に影響が出るノルマの課し方ではなく、これからも本当に内容の濃い相談で、移住をしたらもう鳥取に定住するという思いの強い方が少しでも増えるような取り組みをしていただければなと願います。

○安田委員長

ありがとうございました。市から要請で白岡さん、一緒に県外に行ってもらえませんかという話がありましたね。県外に出られた時の感触というのは、やっぱりついていく方が遥かに効果ありでしょうか。

○白岡委員

そうですね。でも基本はやっぱり相談員の方の人間性に魅力を感じて、特にリピーターの方というのも結構あり、「この間も相談に来ました」、「また今日も相談に来ました」みたいな方をよく見かけたので、移住者の意見というのも参考程度な感じで、相談員の方の人間力というのがやっぱり強いなという印象を受けています。

○安田委員長

ちなみに、相談員の方のキャリアというのはどれぐらいですか、当事者の指導をなさっている方。

○竹氏地域振興局次長

地域振興局の竹氏でございます。白岡委員、大変貴重な、ありがたい御意見を頂戴してありがとうございます。ちょっとどの相談員が対応したのかわからないのですが、長い者ですと三、四年ぐらいという、そんなキャリアで、ちょっと短いかもわかりま

せん。長い者ですとちょっとリタイアしたのですが、６年ぐらいやった相談員もございます。ぜひ今の委員の言葉は、帰りましてから相談員に伝えます。モチベーションもかなり上がると思いますが、やはり数値的な目標もある程度設定をしておいた方が、それに向かってという気力も湧いていきますので、今後も取り組んでまいりたいと思います。

○安田委員長

ありがとうございました。質と量で一緒にやっていただきたいなと思います。

それでは小谷委員、よろしくお願いします。

○小谷委員

私はまちづくりのところの観光とかその他のところでちょっとコメントをさせていただきました。

９４番ですが今、県内の交通事故でやっぱり高齢者の占める割合が非常に高く、人口１０万人当たりで割ると全国ワースト１位か２位ぐらいのところにあります。言ってしまえばベースになる人口が少ないというそれまでですが、非常に高齢者の事故率というのは、死亡率より高いという状況が生まれています。その事故のほとんどは加害者にもなり、被害者にもなるというものでありまして、そのために免許の自主返納制度というのをつくって、返納を促進するような色んな特典も設けられていたり、運転免許センターに看護師の資格を持つ相談員を配置されたりしているのですが、やはり特に郊外、あるいは中山間地に住んでおられる高齢者の方というのは、どうしても車が生活の足になっているので、生活のクオリティーとして代替手段を確保してあげなければ、なかなか返納というところは難しいだろうなと思っています。

例えば高齢者の方が日常よく行かれるのは病院であったり、買い物であったりだろうと思います。ところが日赤病院、生協病院は市内にあるけれども、市民病院、中央病院は郊外にあるため、バスの便は非常に限られているし、あちこち転々と回っていくというところもあって、なかなか乗車状況を見ても、たくさん通院する人は乗ってないなと思います。従って、例えば郊外にお住まいの方はＪＲを使って鳥取駅から１００円くる梨バスみたいなものを病院直行コースで設け、市民、中央、日赤、生協の４つの病院を循環し、他の停留所にとまらないようなコースをつくり、利便性を確保してあげて、降りる時は鳥取駅で降り、その周辺で買い物や食事をして帰ってもらうという、そんな仕組みができないのかなと思います。

それからもう一つは、地域に住んでおられる元気なおばちゃん、車を持っている元気なおばちゃんにちょっと助けてもらって、その地域の高齢者の方を買い物とか、近くの最寄りの駅まで送ってあげるような仕掛けができないかなと思います。ただ、道路運送法とか色んな規約があるので、できるのかどうかわからないところもありますが、そういうふうに地域全体で支えていかないと高齢者の事故というのは無くならないと思います。そういう施策をぜひお願いしたいということで、９４番に書かせていただきました。

○安田委員長

ありがとうございます。今、具体的に１００円バスぐらいで病院にというなかなかいい具体的な案が出ていましたよ。くる梨と同じように１００円バスで、病院だけを循環し、あとは鳥取駅へというような案が出ておりますが。いかがでしょう、交通政策課さん、よろしいでしょうか。

○谷口都市整備部次長

都市整備部です。まずＪＲで来られて病院へ行く便の状況ですが、大体病院に出てこられるのは朝ということで７時から９時前までの時間帯にＪＲで鳥取駅に来られた場合、中央病院ですと約２０分間隔ぐらいで朝は便が確保できておりますし、市立病院ですと１５分から２５分間隔で便は確保できているという状況でございます。日赤についてはくる梨があるということで、ＪＲ直結のバスの便の確保というのはバスで来られる方もおられますので、直結の時間構成というのはなかなか難しいとは思います。現在のところはそのぐらいの間隔で運行できておりますので、直行とはいきませんが、そちらの方で利用していただければと考えております。

○安田委員長

小谷さん、今、１０分、２０分の便がありますと説明がありましたが。

○小谷委員

間隔もさることながら、たらたらと回っていくのが嫌だという声を実際に聞いています。

○安田委員長

なるほど。善処していただくという形でよろしいでしょうか。もう１点、地域ぐるみである程度お年を召した方や地元の方がそれを送ってあげるという、これはちょっと問題があるかもわかりませんが、いかがでしょうか。

○深澤市長

公共交通の維持確保、これは非常に大切なことでありまして、これから高齢化が進展していきますと、免許証を返納される方も増えてくると思いますし、色んな意味で生活交通を守っていくということが大事であります。ただ、個人の方に送り迎えしていただくというのは、少し色んな面で、今の段階では難しいのかなと思っております。そのような中で鳥取市内でもＮＰＯ法人を設立されまして、少し小型の自動車でもって地域の交通を確保していらっしゃる例もございます。吉岡温泉、それから末恒の辺りでそういった取り組みをしていらっしゃる方があり、これはほぼボランティアで運転等もされまして、通院等でこの取り組みを活用している方もおられます。

こういった取り組みがもっと全市的に広がっていったらいいなと思っておりますので、鳥取市としても取り組みにできる限りの支援をしていきたいと思っております。色んな形の取り組みがこれからあり得るのではないかと思っておりますし、そこで何かネックになるような法規制等がありましたら、それは変えていただくということも出てくるのかなと思っております。個人の方にお願いしてというスキームは、ちょっと今、まだまだ難しいのかなという感じで、今お話を伺ったところであります。

○安田委員長

よろしいでしょうか。もちろん無理だろうというのはわかっておられて、あえて質問なさっているわけでございます。御理解願いたいと思います。

それでは、次に移ります。岡本委員、よろしくお願いします。

○岡本委員

先ほどの話は福祉有償運送事業という話で、登録された方に対して事業所が通院、買い物等のタクシー代わりに運行しているという制度があります。実は私ども（市社会福祉協議会）でやっておりまして、通常のタクシー、公共交通機関として使うバス代の半額程度で生活交通会議にかけて認定されて、事業実施しているのが今１０事業所ぐらいあったでしょうか。実は佐治町の方でもやっており、市民病院等に送迎されるのにその車を使っておられるという制度もあります。

○安田委員長

鳥取から、駅から出ているようなものもあるのですか。

○岡本委員

いや、あくまでも佐治に居住されておられる方が登録をされ、そのバスを利用され

るということです。

○安田委員長

ありがとうございます。

○岡本委員

私の方から１つお伺いしたいことと２つお願いがあります。

３ページに、しごとづくりの２番の正規雇用、速報値で８３２人ということで、これに対して質問し、１８ページの２番のところにその回答がございます。ここに正規雇用創造数は非正規職員や未就職者その他云々書いてあり、全て含んだ数字となっておりますということですけれども、実は介護現場、あるいは看護師さんも含めてですが、転職が非常に多いと思います。既に正職員として雇用されていたけれども、転職をして違う事業所で正職員となりましたという方が非常に多いだろうと思います。１年間に２つの事業所ぐらいを代わられる場合であれば、下手をすると少なくとも２人がここにカウントされることになってしまうのではないだろうかと。調査の仕方等で非常に難しいかもわかりませんが、実際には正規雇用の職員の数は全く増えていないけれども、実数として上がってしまうというケースも出てくるのではないかと思いますので、この正規職員の雇用の状況については、もう少し何らかの方法でお調べいただけたらありがたいと思います。

あと２つはお願いですけれども、８ページの４５番のブランド化等というのがございます。ブランドとか定着ということにつきましては、即効性があるものではないだろうと思います。数値で目標値を定めるということは、達成する目標が明確になって非常にわかりやすい、進捗状況もわかりやすいところではありますが、数字だけでは評価されないものもたくさんあると思います。そういった観点からも、あくまでも数字的には未達成だけれども、重要であるといった施策については、できるだけ長い目で見ていただいて、達成に向かって努めていただけたらありがたいと思います。ただ、数字の上だけで非常に評価が悪いので、この事業は廃止しましょうというのではなくて、継続する部分も、ぜひとも続けていただきたいと思います。

それからもう１点。この項目の中で具体的な施策と書いてございますが、重複するもの、関連するものが非常にたくさんあると思います。一つ一つを見れば非常に端的でわかりやすいのですが、あっちやこっちに飛んでおる内容のものがあろうかと思います。できれば備考欄に関係する施策ということで番号だけでも打っていただければ、

非常にわかりやすいと思いますので、そういった配慮をお願いできたら思います。

○安田委員長

ありがとうございました。１点目の全体的な数量、変わらないのではないかと。右から左ではないかという言い回しをされていた訳ですが、その調査方法をもう少し、何とかより具体的にできないかというところです。これはいかがでしょうか。

○竹氏地域振興局次長

地域振興局の竹氏ですが、３月まで経済観光部におりましたもので、若干この辺りについてお話させていただきます。

おっしゃるとおり、いわゆる年度内のダブルカウントというのがございます。ＫＰＩの５，０００人以上という目標数値につきましても、こういったことも含んだ数値の目標を設定しているところです。今後は極力調査できるものは、年度内に転職したという数値も併せて把握し、皆様にお示しするといった形がとれれば、できるようにしたいと思います。

○田中企画推進部長

若干、門外漢かもわかりませんけれども、岡本委員がおっしゃったのは、多分転職ということで新たな就職という、多分その概念でもってお話をされたと思うのですが、こちらの方の目標については、雇用創造数ということですから、誰が就職したというわけでなく、あくまでその雇用の受け皿ができた、そこに何人就職しても、転職されても、１は１というカウントにはなるということで、新たな雇用が創造できてというカウントの仕方です。例えば、端的に言うと誘致企業が来て、そこで１００人新たな雇用が生まれました。それは１００です。その１００の中で、途中、年間に何人か転職されて、それが延べで百何十とかになっても、ここは１００という、この仕切りでカウントするということです。

○安田委員長

絶えずプラス思考ということですね。プラスしかない。

○岡本委員

それで結構ですけれども、その１００人の方が、例えば今、企業に勤めておられた方が１００人転職され、新しい企業に就職されたという場合は、一方では１００人の正規雇用が減少になり、そのまま移行したということも考えられるのではということです。

○田中企画推進部長

その実質的なことは当然実態としてもあると思います。やはりその辺がマッチングといいますか、例えば新しい企業に変わられて、既存の企業に雇用が無くなって困っておられるという実態もあるので、我々としてはこういったＵ・Ｊ・Ｉターン等を促進し、結局全体の雇用人員は増やしていくと。枠ではなく、全体の人員、要は市民を増やしていくと。そういう考え方でこれはやっていきたいなということであります。

○岡本委員

わかりました。

○安田委員長

要は重複しているのは間違いないことでありまして、プラス思考で考えていこうと。それをその流入人口で何とかカバーしていったらというお考えでということで理解したらよろしいですか。

○田中企画推進部長

そうしないと増えませんから。

○安田委員長

そういうことですね。了解いたしました。それでは、次に岡田委員、お願いします。

○岡田委員

私は６ページにあります学童保育の関係で２９、３０、３１番の辺りです。この学童保育の関係の制度ができてからもう１０何年になると思います。私の孫も入っていて、ずっと私も町内会長をその当時からやってきており、今、大学２年生になっておりますけれども、それから現在地域の自治会長をやっており色々見ているわけですが、指導員の方がずっとお一人がやってきておられるということがある。当初設置されて２年、３年目に校長さんに「学校との連携なり指導はどうですか」とお尋ねしたら、その当時の校長さんは「あれは厚生省の管轄ですので、私たちが直に口を出すわけにはいきません」ということでありました。それはそれでいいのですが、では誰が指導されるのか、誰が適切な運営をされるのかということについて指導されるのだろうかと疑問を持ってきておりました。この回答の中に今年から指導員に対する指導の機会を持っていただくという記述があり、ありがたいなと思っておりますけれども、いま一つは、この学童保育の関係が修立小学校あたり、具体的に取り上げてみますと、当初そういった教室を設けた当時に入っている子どもの数と現在の数を比較すると、３

倍以上の７０何人となり、１つ２つ、極端に言えば３つぐらいの教室を使わなければいけないようになってしまっている。そうなると当時、施設の中の１部屋を使っていたのが、物理的に部屋が必要ですから２つ３つと本来学校の生徒のためにつくってある部屋を使わざるを得ないという状況が起きているのが現状ではないかと思います。義務教育ですから、無駄な教室をつくられているとは思いません。ですから、それ専用の施設をお願いしたいということがあるのですが、なかなか色んなことでできない面もあろうかと思うのですが、これは市内共通した課題だと思います。聞いてみると、どの学校でもいわゆる両親がお勤めという中で、そういうところに入りたい児童が増えてきているということであれば、やはり義務教育ですから、全ての子どもの教育環境の完全保障ということを考えてみますと、私はいま少し温かい手を差し伸べていただけたらありがたいと思います。

もう１つ、私は１７，１８年間、交通指導に年間４０回以上出ております。先般も出ていたのですが、私が住んでおります近くに７時半から８時半まで右に曲がったらいけない道路があるのですが曲がる人が多いのです。たまたまこの間、終わりの３日ぐらい前に警察が取り締まりをやられたようで、かなりの人が携帯電話やシートベルトであるとか、それから曲がってはならないところを曲がったということで修立公民館の校庭に入って指導を受けられたということを聞きました。

今、だいぶ良くなって喜んでいるのですが、過去に鳥取の場合、チャイルドシートの関係で、東部は全県で１、２を争う非常に着用率が悪い時代がありました。今、鳥取市の交通安全なり交通対策部長の会ではだいぶ良くなったと喜んでいるのですが、やはり若い、子育て中のお父さん、お母さん方のモラル、交通ルール等の尊重ということについて、みんなで考えていかないと、先ほど老人が交通事故云々のこともありましたが、やはり朝一番の忙しい時ですから、気持ちはわかりますが、その時に一歩下がってルールを守るという人間教育を子育て、ひとづくりの中で考えていく必要があるではないかと思い、この場でちょっとお話しさせていただきました。

○安田委員長

ありがとうございます。ちょっと後の問題に関しては、この施策の中には入っておりませんので、岡田様の考えということで理解していただきたいと思っております。

それでは、２９、３０、３１番に関する放課後児童クラブ云々という話がございましたが、教育委員会さん、このあたりはいかがでしょうか。

○尾室教育委員会事務局長

教育委員会事務局です。おっしゃられるとおり昨今、放課後児童クラブを希望される児童の方がかなり増えてまいりました。平成２８年度現在５４クラブあり、入級しておられる児童生徒というのは２，２２７人という数ですので、かなりの割合、特に１年から３年につきましては、半数近くの方が放課後児童クラブを利用されるような状況になってまいりました。それから、昨年度からは６年生までに拡充して、放課後児童クラブも対応するようにということで、順次可能なところから受入を始めてきてまいっておりますが、岡田委員も言われたとおり、学校施設の中ではなかなか余裕教室というものがございませんので、苦慮しているところでございます。ただ、特別教室、具体的に言えば家庭科室とか図工室とか、こういったところをできる限り活用させていただいて、学校とも相談しながら場所の確保に努めております。それでもどうしても使えないということがありましたら、学校外で公共施設、公民館といったところを活用させていただくとか、それでもない場合には民間の借家とかそういったものも活用させていただきながら、児童の受入を進めております。実際、学校のすぐそばにそういった施設というのがなかなか見つからないという実態もありますし、これも大きな課題として教育委員会も受けとめております。何とか待機児童といいますか、希望される児童についてはできる限り入級できるようにサービスの拡充に努めたいと思っております。

それから、先ほど言われた指導員の研修体制につきましても、ちゃんと国の方が資格要件等を定めまして、昨年度から県の方が実施し、しっかりとした指導ができるような体制に整いつつありますので、よろしくお願いいたします。

○安田委員長

特別教室とか公共施設、それから民間施設を使っていますよということで、岡田さん、よろしいでしょうか。今、善処するということ。

○岡田委員

はい。大事な鳥取市の子どもですから、よろしくお願いします。

○安田委員長

ありがとうございました。それでは、最後、入江委員、よろしくお願いします。

○入江委員

冒頭からかなり出ています評価の仕方について、一つ御参考になればというか、こ

うされてはどうですかと思うことがあります。自分も評価しながら非常にプロセスがわからなくて、どういう活動をされたのですかということを質問して初めて返ってくるという感じなので、銀行の評価の中でも「プロセス評価」というものを取り入れております。資料がＡ４に入らなければＡ３にされてもいいのではないかと思うので、こういう活動をされてこういう結果になりましたとわかりやすくしていただけるとありがたいと思います。

それともう１点だけ、１９ページの５０番ですが、これも自分の担当だったので質問させてもらったのですが、今、我々銀行の中でもビジネスマッチングだったり、企業間の連携であったりというのは力を入れているところですが、前より実績が減ったのは何なのでしょうとお聞きしたら、結局補助金が出るか出ないかで制限があるので、「なるほど」と納得したところです。しかし有望な技術や商品は、こうした制限をここまで設けないといけないのかなと思ったり、新規にしても、実績にしても減っていくというのは、それだけ対象企業さん自体少ないのかなということも思ったりするので、もう少しその運用を緩和される方向で考えられたらいかがだろうかと思います。特に誘致企業さんも来られている中で、マッチングの機会というのはより多い方がいいと思います。そういったことを御検討いただけたらなと思いました。

○安田委員長

ありがとうございます。これは企業立地・支援課。

○浅井経済観光部次長

５０番の補助金につきましては、技術競争力を高めるための各種展示会等への参加について事業費の３分の２、３０万円を上限とした補助金ということで実施させていただいております。国内外それぞれ３回ずつまでということで実施させていただいており、御指摘のとおり、新規企業さんが減ってきているという状況がございます。現状と予算等を勘案しながら、今後事業のあり方を研究させていただきたいと思います。

○安田委員長

ありがとうございます。入江さん、よろしいですか。

○入江委員

はい。

○安田委員長

こういう出展なさるところというのは、積極的でやる気を十分お持ちの企業が多い

ですよね。従いまして、一企業で３回という縛りをつけるのがいいのか、この辺りもちょっと研究をしていただけたらなと思っています。やっぱりやる気のある企業さんがどんどん出ていかれるという傾向にあると思います。県外に出ますと、いつも同じメンバーしかいないと。もちろん新しい企業も入っていただきたいのですが、３回という縛りであるとまたマイナスになってくることは当然自明の理であります。一つその辺りも検討していただけたらなと思います。

以上で皆様方の御意見をいただいたわけであります。この程度で次に移らせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

なければ、このたびの検証を踏まえて、ＫＰＩの修正など、総合戦略の改訂について御承認をいただいてよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

御承認いただいたということで、次に移らせていただきたいと思います。

それでは、第９次総の総括についてということで、資料３でございますので、事務局から説明をしていただきます。よろしくどうぞお願いします。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

資料３、３－１、３－２に基づき説明（略）

○安田委員長

ありがとうございます。大変わかりやすい総括で良かったなと思っております。

ちょっと１点、私自身の質問としてですが、４ページの鳥取管内の有効求人倍率は鳥取市として考えたらよろしいですか。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

管内は鳥取、倉吉、米子の３つに分かれており、これは鳥取県東部ということです。

○安田委員長

ちなみに西部はどのぐらいでしたか。１．２くらいでしたかね。鳥取が一番低かった。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

そうです。

○安田委員長

はい。今、事務局の方から説明がございました件につきまして、何か御質問、御意見等ございませんでしょうか。

なければ、次に移らせていただきます。その他の項目です。何か事務局用意されてお

りますでしょうか。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

１点。今日追加でチラシの方をお配りしておりますが、７月３０日に開催します「山陰新幹線の早期実現と北陸新幹線京都府北部ルートの決定を求める決起大会」の案内ということで、都市整備部の方から説明をさせていただきます。

○安田委員長

よろしくどうぞお願いします。

○谷口都市整備部次長

チラシにもとづき説明（略）

○安田委員長

ありがとうございます。「山陰縦貫・超高速鉄道整備推進市町村会議」の会長をなさっている市長、これから以降のタイムテーブルとして、本年はどんな形で動くのでしょうか。

○深澤市長

では、少しだけ補足させていただきたいと思います。

山陰新幹線は御承知かと思いますが、昭和４８年に基本計画が策定されまして、そのまま凍結といいますか、全く動いてないような状況で今に至っております。これは色んな要素があったと思いますが、ここに来て北陸新幹線の今、金沢まで来ているのですが、福井県の敦賀から西のルートが、今３つに大体絞られてきました。

このチラシの裏面を御覧いただきたいと思いますが、一番現実的と見えるような米原ルート、敦賀から福井県の小浜に行きまして南にほぼ真っすぐおりる小浜ルート、それから京都府の舞鶴まで西に行きまして京都に至る舞鶴ルート、この３つに絞られてきているところでございます。

聞くところによりますと、年内に大体この３つの中で一つに絞られていくということでありまして、この３つの中で仮にこの舞鶴ルートが北陸新幹線の敦賀以西のルートに選ばれますと、山陰新幹線を考えてみますと鳥取から京都までの大体４割ぐらいは、自動的にもうできたという見方もできると。そうなりますと、鳥取から舞鶴までのこの間が整備されると、山陰新幹線も現実の話にぐっと近づいてくるということであります。ちなみに、これが整備されますと鳥取－京都間は片道が大体５０分ちょっとで行けるということであります。

それから、新幹線につきましてはフルスペックでいきますと、なかなか大変なのですが、例えば単線の新幹線とかあるようでして新幹線の優れた定時性、時間がきちっと守られる、そういったもので考えますと、３０分に１本ぐらいのダイヤであれば、単線でも十分機能するということでありますし、山形のような在来線と新幹線が共存するスタイルもあります。色んなバリエーションがあるということで、そうなりますと事業費もぐっと何分の１かに抑えられるということで、決して夢物語ではなくなるというのがこの舞鶴ルートが設定された場合であります。京都府では府を挙げて、一部小浜－堅田ルートがいいという自治体もいらっしゃるのですが、大体総じて京都府はこの京都府北部ルート、舞鶴ルートを推奨しておられ、何とかこれを実現したいという状況にあります。ちなみに、政府与党の検討委員会の委員長が京都出身の西田昌司参議院議員でありまして、西田先生もこの舞鶴ルートを力強く推奨しておられます。

ここでタイミングとして、鳥取はもとより山陰地方で舞鶴ルート実現に向けて、そういう雰囲気を醸成していきますと非常にこの京都府の方の運動、取り組みも追い風になってプラスになるということで、連動してやろうというのがこの取り組みであります。ちなみに、国会議員の先生方も議員連盟を結成、設立をされておられまして、大体今年９月ぐらいに議員連盟の方でも決起大会のようなものを開催したらどうかということも伺っており、これから大いにこの機運を醸成していきたいと思いますので、ぜひともこの７月３０日に御参加いただければ大変ありがたいと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

○安田委員長

ありがとうございます。私も金沢に行ってびっくりしました。金沢のまちがこの新幹線で変わったのですね。流入人口がすごいです。並ばないと寿司を食べさせてもらえない店ができていますので、びっくりしました。

ぜひ７月３０日には皆さんもとりぎん文化会館に足を運んでいただきたいなと思います。この藤井先生というのが大変深い造詣をお持ちの先生だとお聞きしております。

○田中企画推進部長

最初に森原委員の方から人口動向に関して若干質問をいただいていまして、全てわかっているわけではないのですが、先ほど国勢調査の５カ年の比較で３，６８３人という減少がございましたけれども、まだ確定値ではないので、個々の細かい数字は出ていませんが、やはり傾向として国府町以外はほぼ減少だと。旧市は当然ですけれど

も、一番多いのは佐治町、青谷町で、２地域は同じような率で減少しているということであります。

もう１点の住民登録の未登録、選挙権の関係の話がありましたけれども、昨年１０月１日国勢調査と住民登録の差が１，６４４人ということで、国勢調査の方が多いのです。実際におられる方が多くて１，６４４人住民登録が少ないのですけれども、これは逆に登録しているけれどもおられないという入り繰りもあるので、実際にはもっと住民登録をされてなくて、市内におられる方は多いのだろう思います。確定した数字はわからないと思いますけれども、やはり学生さんの方がメインになるのではないかと思います。毎年春先には市民課の方が鳥大、環境大に出向いて出前住民登録促進をやっておりますが、なかなか多くないという状況もあります。これは引き続きやります。この辺り、もう少し詳しいデータをまた皆さんの方にお配りをできればと思っておりますが、今のところは以上の状況であります。

○安田委員長

迅速な対応をありがとうございます。森原委員、よろしいでしょうか。

○森原委員

はい。

○安田委員長

それでは、平成２８年度の第２回鳥取市総合企画委員会をこれにて閉会させていただきます。本日はどうもお疲れさまでございました。ありがとうございました。